

雄志・八千浦中学校区 同和教育だより

<雄志中・八千浦中・諏訪小・戸野目小・上雲寺小・高士小・八千浦小 共同発行>

[平成28年1月 No. 3]

共に生きることの幸せ

11月19日(木)に、八千浦小学校で人権教育、同和教育講演会が行われました。八千浦小学校の高学年児童をはじめ、中学校1年生の生徒、保護者や地域の皆様にも参加いただきました。講師の古河邦子さん(さいたま市五反田会館職員)から、「共に生きることの幸せ」という演題で、お話をしていただきました。御自身が「被差別部落」と呼ばれる地区に稼いでから差別をされた体験や、学ぶこと、知ることの大切さ、家族や友人など周りの人の理解や支えの大切さなどについて穏やかに語っていただきました。



古河さんは、旦那さんと結婚するために、何年もかかったこともお話していただきました。両親の反対がありましたが、最後に古河さんの背中を押し、一番応援してくれたのは、当時の中学校の教え子たちであったことから、古河さんの素晴らしい人柄が分かりました。結婚をしてから、なお差別はひどくなり、旦那さんの言葉に支えられてきたことも聞きました。差別をされるくやしき、苦しさ、辛さを乗り越え、差別に立ち向かっていく古河さんの生き方から多くのことを学ぶことができました。

部落差別とは、出身地だけでその人を差別してしまう愚かなことです。世の中には、自分の故郷を人に話すことができない人がいます。ただ、そこに生まれただけで、何もしていないのに、差別をされる人がいるのが現状です。出身地だけで、その人のことが分かるでしょうか。出身地に捉われ、その人自身を見ようとしなければ、これからも差別がなくなることはないでしょう。

そして、知らないということは、気が付かないうちに差別をしてしまっているかもしれません。誰も、差別をしようと思っただけではないのです。古河さんのお話の中にもあったように、正しいことを学ぶことが大切です。児童生徒たちと共に、正しいことを学び、行動し、自分たちから周りを変えていけばと思います。そして、同和教育問題を「自分には関係のない問題」ではなく、「自分(たち)の問題」としてとらえ、学び、自らの行動を見つめていきましょう。

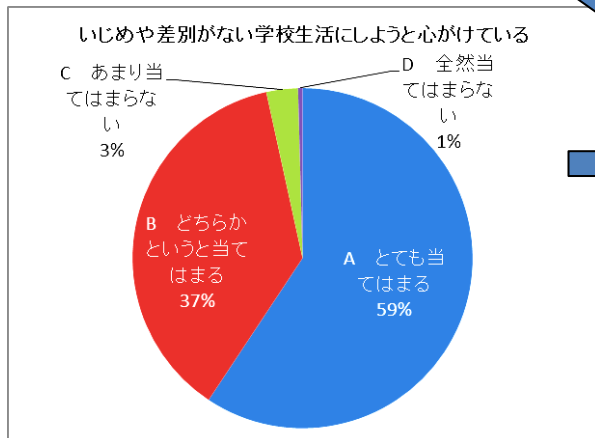
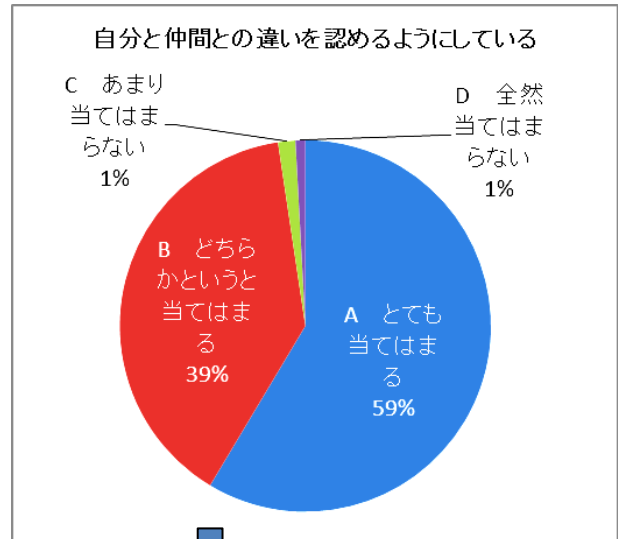
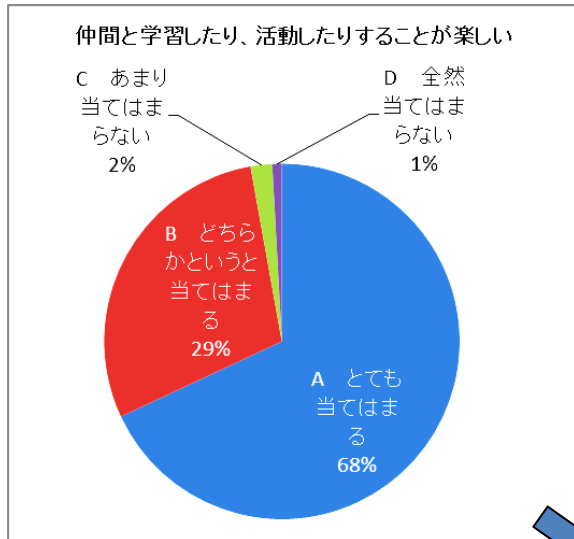
<<児童の感想>>

- 私は、講演会を聞いて、私も差別しようという気持ちがなくとも、差別してしまっていることがあるのではないかと思います。周りに流されて勝手な思い込みだけで、無視をしたり、いじめたり差別するなんてひどい、おかしいことだと思いました。
- 古河さんがタクシーに乗せてもらえなかった話、タクシーの運転手や周りの人から言われたひどい言葉によってたくさん辛く、苦しい思いをしたそうです。私は、講演会を通して、学ぶことが大切だと思いました。正しいことを学んでいないから差別をするということが分かりました。これからは、仲間を大切にしていきたいと思います。
- 部落出身というだけで、差別をされてきた古河さんの話を聞いて、悲しい気持ちになりました。古河さんは、みんなのために、その地域に救急車や消防車が通れる道をつくったり、子どもたちが遊べるように公園をつくったり、地域の人のための施設をつくったりして町を明るくしようと活動しているのがすごいと思いました。

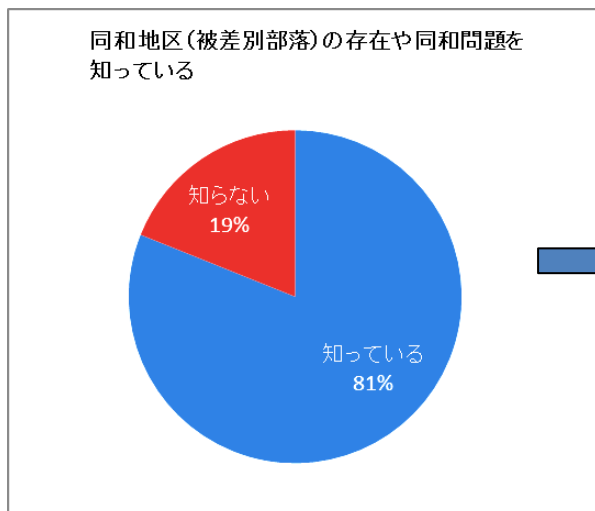
同和教育にかかわるアンケートの集計結果

児童・生徒、保護者、地域の皆様からご協力いただいたアンケートの集計結果をまとめましたのでお知らせいたします。ご協力ありがとうございました。この結果を7校で分析し、今後の同和教育の推進に役立ててまいります。

児童・生徒を対象としたアンケート結果 (回答者数 小学校5、6年生:193名 中学生:267名)



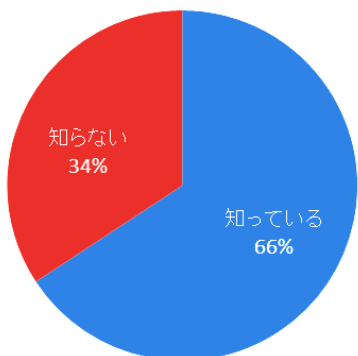
・これら3つの質問については、どれも90%以上の児童・生徒が肯定的な考えをもっています。
 ・否定的な考えをもっている少数の児童・生徒の悩みや困り感に寄り添えるように、相談や支援の体制を整えていきます。



・全体で80%以上の生徒が、同和地区や同和問題について「知っている」と回答しています。
 ・各校で計画に沿って同和教育を進めていますので、「知らない」と回答した生徒については、学習内容が定着していないものと考えられます。小学校入学から中学校卒業までを見通し、さらに学習が定着していくよう、指導を進めていきます。

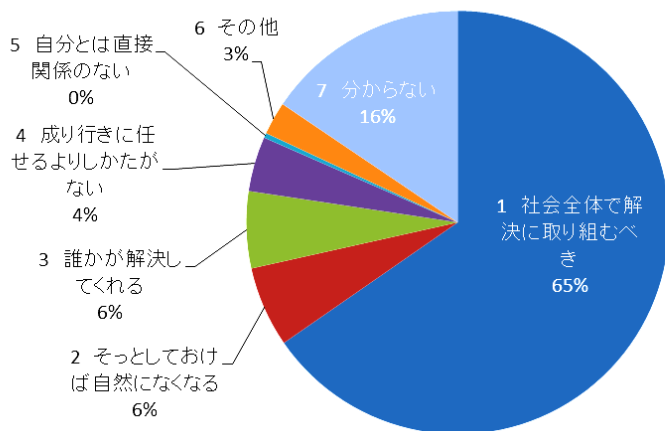
保護者、地域の皆様を対象としたアンケート結果(回答者数 1053名)

同和地区(被差別部落)の存在や同和問題を
知っている



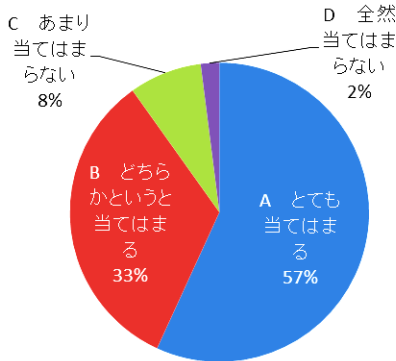
- ・約3分の2の方が、同和地区や同和問題に「知っている」と回答しています。
- ・さらに多くの皆さんから同和問題についての正しい認識をもっといただけるよう努めます。たよりや授業を通して児童・生徒の学びを発信していきます。

同和地区(被差別部落)の存在や同和問題について

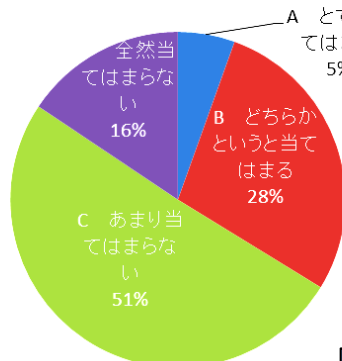


- ・約3分の2の方が、同和問題の解決について「社会全体で取り組むべき」と回答しています。
- ・同和問題は「我が国固有の人権問題」であり、現在もこの問題で苦しみ、切ない思いをされている方が多くいらっしゃいます。私たちみんなの問題として、学び、取り組んでいく必要があります。

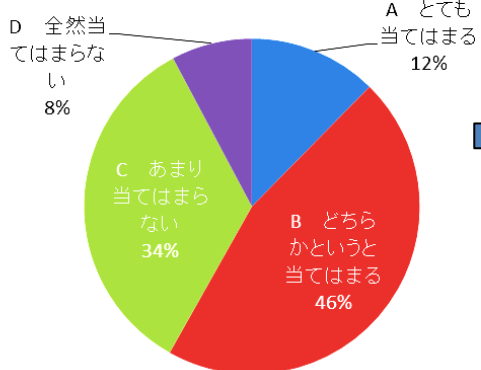
子どもたちが、人権問題や同和問題を正しく認識し、人権感覚を磨くことは大切なことである



学校や地域で実施される同和学习や同和教育に関する研修会などに、積極的に参観(参加)しようとしている



自分自身が、人権問題や同和問題に関心をもっている



- ・人権問題や同和問題を正しく認識することの大切さを理解されている方が80%以上おられることをありがたく思います。
- ・多くの方から各学校の授業参観や講演会等においていただき、児童・生徒・学校職員と一緒に、学び合い、語り合っていたいただければと思います。

《各校の実践紹介 ② 八千浦小学校》

互いを認め合い励まし合う温かい関係づくり

レインボー班活動



全校で、18のたてわり班（レインボー班）を作り、年間を通して様々な活動をしています。いろいろな学年の友達とかかわることを通して、お互いを認め合う態度や思いやりの気持ちを育ててほしいと願っています。

レインボー遠足



レインボーランチ



6年生が中心となり、たてわり班みんなので、あたたかい言葉をかけ合ってなかよく笑顔で活動しています。

みんなのことを考えて遊びを考えたり、本を選んだり、そうじの時に声をかけたりする6年生の姿を見ながら、下級生も育っていきます。

たてわり読書



小中合同いじめ見逃しゼロスクール

みんなでいじめのない学級や学校にするためにはどうしたらよいか考えました。高学年と中学生で話し合って考えたスローガンを全校で確認しました。



親子奉仕活動



親子で校舎の清掃を行いました。保護者の皆様にも、自分のお子さんだけでなく、子どもたちにあたたかい言葉をかけていただきながら活動することができました。親子や地域の方とのかわりも大切にしています。

人権教育、同和教育学習参観

11月19日（木）に、人権教育、同和教育の授業参観を行いました。人権教育、同和教育は、低学年からの積み重ねが大切だと考えます。正しいことを学び、少しずつ行動に移すことができるよう、よい行動や温かい言葉がけができた子どもたちを褒めていきたいと思えます。また、保護者の地域の皆様から温かい気持ちで見守っていただくことで、子どもたちが安心して、穏やかな気持ちで学校生活を送ることができています。子どもたちとたくさんの人たちの温かい心のつながりを大切に、仲間を大切にできる温かく優しい気持ちを育てていきたいと考えています。

